

2023年10月13日(金) —15日(日)

## 北国街道ブラ歩き 追分—小諸—上田

今回はいざという時のために長女の園子に加わって貰い、家内と3人で北国街道のつまみ歩きに挑戦した。途中2度ほど道に迷い、また、小諸から田中までは2駅分ほど信濃鉄道を利用したが、何とか目的地の上田宿まで到達できたのは幸いであった。

### Day 1 追分—小諸 10月13日(金) 晴

7時24分の長野新幹線に乗り、車中パンと珈琲で軽い朝食をとる。軽井沢で信濃鉄道に乗り換え9時15分信濃追分着、直ちに中山道と北国街道の分岐点である追分宿に向けて歩き出す。追分宿は中山道の宿であるが、北国街道の起点でもある。追分は軽井沢町の西端で歩行中別荘とおぼしき建物も散見され、楽しい歩行だった。中山道に合流してすぐの所に浅間神社があり、その境内に芭蕉の句碑があったらしいが、ここは素通りしてしまった。

10時少し前に堀辰雄文学記念館(写真1)に短時間立ち寄り、そこにある堀辰雄旧邸の仕事部屋や書庫を見、有名な「風立ちぬ」が発表された雑誌「改造」の現物を見る。書庫にはびっしりと書籍が並んでいるが、その中に斎藤茂吉の「柿本人麻呂」という分厚い本が数冊あった。そのすぐ横に追分宿本陣門があり、軽井沢町教育委員会による本陣の見取り図とその説明が記されている。

10時23分追分の分岐点着、右：北国街道、左：中山道との立札がある(写真2)。ここを右に曲がる。すぐに東洋英和の軽井沢追分寮がある。ここは次女の朋子が中高時代に来たのではないかと思いつつ通過。ここでまた道が何本かに分かれているがどの道にも旧北国街道との標識はない。そもそも旧東海道は重要な分岐点には必ず標識があり、歩行中の街並みにもそこが旧東海道との表示がでていることが多い。この点北国街道は親切心が足りないと思う。また地元の信濃毎日新聞発行の岸本豊著「北国街道を歩く」も持参したがこれを見てもどちらの道を進むべきか判断がつかない<sup>1</sup>。はっきりと表示があるのは国道18号線だが、北国街道はこれより北側なので、18号線より北側の道をとった。後で見るとここは18号線に行くべきだったが、この場所にはどの道が旧北国街道かを明記すべきだろう。軽井沢町当局をはじめ関係者の検討を期待するところ大である。結果としてはここで北国街道を外れてしまったので、この先の一茶の句碑「有明や浅間の霧が膳をはふ」その他いくつかの見所を見損ねてしまった。

さて、間違っただ道を北にとってすぐに青山学院の施設がある。更に進むと大浅間ゴルフクラブの前を通りかかる。人家は全くない。更に登っていくと浅間山が眼前に展開する。実に唯大で良い景色だ(写真3)。怪我の功名というべきか。この道は片側1車線の両面通行だ

<sup>1</sup> 歩行者の観点からは旧東海道に関する八木牧夫「ちゃんと歩ける東海道五十三次」の地図の方が遙かに分かりやすい。実際我々が日本橋から京都まで歩いた際にはこのような間違いは一度もしたことがない。最もこれはガイドブックの差だけではなく、旧東海道には要所要所に旧街道を示す矢印があるのに対して、北国街道はこの種の矢印が極端に数少ないという点にも原因があると思う。

が歩道が広いのでゆったりと歩ける。かなり下ったところの交差点に洒落たパン屋があり、ここを通りかかった女性にここは北国街道かと聞くと、答えは否でサンラインという道で、小諸までは最短距離の自動車用の道だが、この先は歩道が非常に狭く危険だ、北国街道はもっと下におりたところだと言われ、旧東海道の道中で一度もしたことの無い道の大間違いを犯したことに気づき愕然とする。今から考えると人家が絶えた辺りで気づくべきではあったかと思う。

仕方がないので別の道を下りてゆくと道幅が狭まり人家が並んでいるところに出るが現在地は全く分からない。地図を見ながら思案しているとそこを車で通りかかった女性が声をかけてくれ、北国街道(旧道)への道は何の標識もなく分かりにくいので、自分の車で旧道まで連れて行ってくれるとのこと。地獄に仏というにはややオーバーだが、こちらはその女性の好意に縋るしかない。という次第で北国街道沿いにある御代田の馬瀬口の明治天皇小休止所まで車で送って頂いた。世の中には親切な人がいるものだ。時間は既に 12 時 45 分を指している。歩き出して 3 時間半もかかっている。

この場所は正に北国街道の名残を色濃く残しており、元気づいた我々 3 人は再び歩き始める。道に迷った分だけ余分に歩いたのか、ここまで車で送ってもらった為歩く距離が縮まったのかは全く不明だが、ここから暫くは旧街道の雰囲気を楽しみながら歩く(写真 4)。暫くすると再び国道 18 号線に合流してしまい、車が両方向で往来する脇の狭い歩道を歩く。娘が地図を見てこの先の平原(ひらはら)まで歩くと丸山コーヒー店があるというのでそこを目指して懸命に歩く。朝列車の中でパンを食べたばかりでお腹がすいている。丁度蕎麦屋を通りかかり入ろうとするとすぐ目の前に丸山コーヒー店がある。ちょっと迷ったが初心貫徹で丸山コーヒー店に入る。期待に反してサンドイッチがなかったのでコーヒーとケーキでランチがわりとし、40 分ほどいて 2 時半に再度歩き始める。3 時半漸く小諸の入り口に差し掛かり、大きな古民家が何軒か出てくる。矢張り小諸の町は素晴らしいし、文化の香りもして歩いていて楽しい。4 時に酔久味噌店に立ち寄り色々買い物をして、自宅への発送を依頼する。4 時 20 分島崎藤村が通った大和屋紙店でも便箋などの買い物をし(写真 5)、5 時前に小諸グランドキャッスルホテル着。ここは今年 5 月にも長野の帰路、幸子と宿泊した勝手知ったる場所だ。園子は小諸が初めてということで 1 人で懐古園に行く。暫くして光恒もそこに向かい園子に合流。夜は味噌屋さんで聞いたイタリア料理屋(Citta Slow)にタクシーで向かう。倉を改造した洒落た作りで雰囲気も良く、味は抜群。しかも値段も安く大いに満足して再びタクシーでホテルに帰る。

本日の総歩数は 37840 歩、やや疲れたので、明日は小室から田中まで電車で二駅ほど楽をしてそこから徒歩で上田に向かうこととした。

## Day 2 小諸—上田 10月14日(土)晴

7 時半バイキングの朝食。9 時チェックアウト。9 時 23 分発の信濃鉄道で二駅目の田中

駅で下車。昨日は 38000 歩近く歩き、今日もし上田まで歩くとかなりの疲労が見通せたことから、疲労困憊を避ける為この方法を選んだもの。これにより本日の総歩行歩数は 29714 歩と前日より 1 万歩減少した。車中運転席のすぐ後ろから進行方向に向けてビデオを撮って孫に送ったところ大変よろこばれた。

10 分で田中駅につき観光案内所で一通り話を聞いた上で街を歩いたが駅周辺の建物が皆綺麗で、商店にも客が多く勢いを感じた。この周辺は胡桃の産地とのことで、我々もくるみの入ったお土産を色々購入した。ここを出て今回のハイライトである海野宿に向かい、10 時 40 分ごろ北国街道と千曲川との合流場所にある海野宿到着。ここは 600 メートルに亘って昔ながらの街並みが保存されている。ここの写真は我々の持参した信濃毎日新聞出版の北国街道の案内書の表紙になっており、現在では北国街道全体を代表する宿場町となっているようだ (写真 6)。ここには本陣の建物の一部のほか、旧旅籠、民家や商家が並び (中には空き家もある)、道の端に人工の小川(堰)が流れている。小林一茶の句 (夕過の臼の研 (こだま) の寒さ哉) の石碑もある。散策の途中自家栽培の葡萄を売る店があったのでここでリンゴジュースを飲んでブドウを一房買う。実にうまい。次いで古本カフェで休憩 (写真 7)。そこでランチの場所を聞いたところこの宿の入り口にある福嶋屋という蕎麦屋が良いだろうというのでそこに行くとな勢並んでおり、40 分ほど待たされてようやくもりそばと胡桃のおはぎにありついたが、味は確かに良かった。という次第で海野宿には 10 時 40 分に到着し 1 時 10 分まで都合 2 時間半もいたことになる。

その後大屋、国分寺を経て休憩なしに上田まで歩き通した。道中のほとんどは右に信濃鉄道、左に藤村の千曲川旅情のうたで有名な雄大な千曲川<sup>2</sup>を見ての歩行で、時折千曲川を真近に見る機会がありその景色を堪能した (写真 8)。

上田に着く数キロ前から歩道もろくにない危ない土手下の道を結構長く歩き、どうやらこの道は間違いであることに娘が気付いたが時既に遅く北国街道に戻る事ができず、最終ゴールを北国街道沿いではない上田駅に変更し、午後 4 時丁度に上田駅に到着、これを以て今回の追分―上田の北国街道つまみ歩きのゴール達成とした。すぐに駅の観光案内所に直行して当初のゴールである北国街道の柳町までタクシーで直行。海野宿ほどではないがそれなりに情緒のある柳町を散策することで昔を偲び (写真 9)、例によってちょっと洒落た喫茶店で一休みして柳町で 1 時間ほど過ごし、北国街道沿いに小諸方面に戻り、途中から街道を外れてみずず飴本舗でジャム等を買って上田駅経由ホテルにルートインホテルにチェックイン。小休止ののち町の人気のとんかつ屋で夕食、暫時散歩して孫たちへのお土産を購入後ホテルに帰ってこの日の全行程を終了、最終歩数は既述の通り 29714 歩であった。

### Day 3 上田 10 月 15 日 (日) 小雨のち曇り

---

<sup>2</sup> 長野県内を流れる川でのち信濃川と合流して新潟県内で日本海に注ぐ。この両方を併せて河川法上は信濃川と呼ばれるが、全長 367km のうち千曲川部分の方が 214 km と長い。これを合わせて信濃川は日本で一番長い川とされている。

昨日で今回の北国街道歩きは一応の目的を達したので、今日のはのんびり上田を散策することとした。

9時半ごろホテルをチェックアウトし小雨の中を昨日歩いた北国街道の柳町まで行く。今日は日曜日で午前11時まで車を止めて朝カフェをやるとあったのが理由であったが、人出が少なく期待外れ。次に上田城址に向かう。徒歩10分程だ。ここは関ヶ原合戦の際に真田昌幸・幸村父子が徳川秀忠率いる2万5千の大軍の攻撃を防いでその西上を防いだことで知られた名城だが、その後廃城となり今は上田城址公園となっている。ここには西櫓など往時を偲ぶ建造物が残っており、新幹線車中から見えるのはこれである。堀に沿って一周することが出来、美しい景色を楽しんだ(写真10)。

その後再び柳町まで戻って老舗らしい構えの蕎麦屋に入り発芽もりそばと椎茸の天ぷらを頼んだが、やや期待外れ。そこから駅に向けてだらだら坂を下り、そこを横切る北国街道を左折したところで「信州アップルパイ研究所」という変わった建物の前に差し掛かった。中を覗くと客が結構いる。入ってみると色々なリングをアップルパイにして売っており、不思議なことに客は男性が圧倒的に多い。早速列に並んで帰路の新幹線のおやつとして何種類かのパイを買った。その後駅に直行し帰路の新幹線の時間を早めた上で、また、一寸洒落た珈琲屋に入る。ここでも色々な豆と煎り方を選べる。信州はそばだけではなく珈琲でも東京にはあまりないような良い喫茶店がたくさんある。また、街に本屋(古本屋を含む)が多いのにも感心した。教育熱心な土地柄なのだと思う。珈琲屋を出て駅に向かう途中で家内と娘がまた竹風堂と言う和菓子屋を見つけて飛び込む。店は大繁盛だ。ここで新栗のおこわと栗羊羹を買って新幹線で帰京した。

今回の街道歩きのかなりの部分を食べ物屋での飲食と買い物に費やした。その分歴史的遺産に時間がとれなかったのは遺憾であったが、これもまた旅の楽しみだろう。

この日の歩数は約17000歩。3日間を通して歩数は約85000歩であった。歩行記録は以上であるが、以下全体を通しての感想を述べる。

第一は旧東海道との比較で北国街道は肝心な分岐点での案内標識がほとんどと言って良いくらい無いことである。今回我々は2日間に2度も大きな間違いを犯したがこの大きな原因の一つはここにある。今後高齢化と共に元気で時間のある老人が増えると、街道歩きが増えること必至と思われるが、この場合このままでは北国街道は置いていかれることになるだろう。関係自治体や地域住民がこの点に気づき、歩きやすい北国街道作りに早急に着手してほしい。

次に気づいたのは、旧東海道に比べて歴史的文化的遺産が少ないということだ。この点で小諸は出色の宿場だ。また、おそらくかなり見落としているのだろうが、短歌の歌碑は一つも見かけず、芭蕉と一茶の句碑はあるものの、その数も少ない。この点があるからこそ、余計に道路標識を要所要所に明示して **traveler friendly** な環境整備に努力をしてほしいと思うことしきりである。勿論浅間山や千曲川などの雄大な自然は我々旅人をゆったりした気分させてくれる。この先長野までにも雄大な自然を楽しめることを期待している。以上

(写真1) 追分の堀辰雄文学記念館



(写真2) 追分 (左: 中山道、右北国街道)



(写真3) 浅間山の雄大な風景



(写真4) 旧北国街道 (御代田周辺)



(写真5) 藤村が通った大和屋紙点



(写真6) 海野宿入り口



(写真7) 海野宿の古本カフェ



(写真8) 悠々と流れる千曲川



(写真9) 柳町の街並み



(写真10) 上田城址公園

